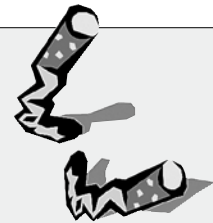


地域で見守る子育て!子育て! ⑩

誤飲など不慮の事故予防の視点から～街を見てみましょう!

①誤飲事故予防の視点から

お子さんが生後5～6か月くらいになると、手にしたものを口に持っていきようになります。2歳くらいまでは、物を口に入れる子どもは多いものです。食べられるかどうか、安全かどうかの判断もできないため、誤飲事故が起こる危険性があります。



◎公園を見ると… 道路を見ると…

- ・たばこの吸いから、包装紙、ビニール袋など乳幼児が口に入れることができるものが落ちていませんか?
- ・飲み残しの入ったペットボトルや、ビールなどのアルコール類の缶、灰皿がわりの空き缶などが転がっていませんか?
- ・ボタン電池、ガラスなど危険なものはありませんか?



②交通事故予防の視点から

歩行中



おもちゃや動物、他の子どもを追いかけて車道に飛び出したり、運転手の死角に入りバックする車にまき込まれるケースも多い。

街をきれいにするのは気持ちいいですね!

「マナーを守ること」は
「子どもたちへの優しさ」でもあります!

路上駐車で子どもたちの視野をさえぎっていませんか?
不法駐車はやめましょう!

道路に面した公園や家屋からは、子どもが飛び出してくるかもしれません!
「スピードダウン」は
「子どもたちへの優しさ」でもあります!

子どもたちの成長を、優しく見守ってください。

問合せ先 いきいき広場内保健福祉グループ
☎52-9871

